地域おこし協力隊通信（No. 17）　種子島の野菜作り

昔住んでいた大阪市には土がありません。極端に言うとです。ベランダで植物を育てようと思いましたが土がないことに気づき、田舎に帰省した後輩から土をお土産に頂いたことがあります。ふと土が無くなった世界を描いたケビン・コスナー主演映画『ウォーターワールド』を思い出しました。そんなこんなで、家庭菜園、それも無農薬、無化学肥料の自然農法を今、挑戦しています。作物は安納芋、ニンニク、ネギ、白菜、大根、ワサビなど。

家庭菜園の畑は知人の大家さんと、とある師匠が所有している2か所です。とある師匠は無農薬、無化学肥料の自然農法で活躍中の方。ある日、畝をクワで作ることになりました。自然農法師匠はヒョイヒョイと溝を作りながら畝を盛り上げていきます。一振りで一歩、また一振りで一歩進みます。ひとサイクルがヒョイヒョイなんです。自分がやりました。ヨイショドッコイショ…ムムムムムム。で、穴を掘っているだけです。師匠が邪魔くさそうに言いました。

「土は、土が知らない間に、移動させてやるの。穴をあけるんじゃない。移動…」

そう言えばこの間、90歳のタンカン師匠も同じようなことを言ってました。

「剪定は木が切られたことが分からないよう切りなさい」

今度は自然農法師匠に聞きました。無農薬、無化学肥料の自然農法でりっぱな野菜を作るコツは？

(師)「植物と会話しなさい。いまその植物が何を欲しがっているのか聞きなさい」

(山)「はい、ちなみにニンニクさんが、元気がないようなんですが、聞いてみます」

(山)「(何か必要ですか)」

(二)「…」

(山)「返事が無いので何もいらないようです」

(師)「わっはっははは」

禅問答のような畑いじりですが、大好きな映画『燃えよドラゴン』の主演ブルース・リーが弟子に対して言うセリフをふと思い出しました。

「そこばかり見ずに、その先にある栄光をめざしなさい」

（山村）

森林の有効利用と健全な育成を図る

第 64 回熊毛地区植樹祭

第64回熊毛地区植樹祭が、1月17日に太陽の里運動公園であり、熊毛地区4市町から約１３０人の関係者が参加しました。

式典では、林業功労者への各種褒賞授与のほか、「木材の島外移出と地材建材の取組を推進し、島内産材の需要拡大を図ろう」など5項目のスローガンが採択されました。

また、陸上競技場横では植樹祭を記念し、早咲きの桜37本が植えられました。

桜を記念植樹

農業振興施策について意見書を提出

中種子町農業委員会

意見書を提出する濵脇会長（中央）と
石堂会長職務代理（右）

中種子町農業委員会が、1月29日「農地等の利用の最適化の推進」に関する意見書を町長に提出しました。

これは、平成28年4月に改正された「農業委員会等に関する法律」により行うもので、意見書には、①基幹作物の推進強化②担い手への農地集積の促進③新規参入の促進④遊休農地の発生防止と解消⑤鳥獣被害防止対策の推進・強化、について求める内容が盛り込まれています。